

第 10 回山のトイレを考えるフォーラム開催にあたって

岩村和彦（山のトイレを考える会 代表）

皆様、このたびは第 10 回目を迎えました山のトイレを考えるフォーラムにご参加くださいましたことに対し、深く感謝を申し上げます。

思い返せば、山のあちこちに散在するトイレ紙や排泄物に心を痛めた有志数人が集まり、何とかしなければ山は死んでしまう、という思いだけでこの会を立ち上げました。そして緊急にすべきこととして山のトイレ問題の現状を広く世間に発信しようと第 1 回目のフォーラムを開催したのは 2000 年でした。

トイレフォーラムも回を重ねて 10 回目を数える記念すべき今日ではありますが、これを素直に喜ぶことは決してできません。当然ですが、その裏返しとしてトイレ問題はいまだに解決をみていないことに他ならないからです。

これまでにさまざまな取り組みをしてきたのは皆様ご承知の通りです。毎年 9 月の第一日曜日に行う全道一斉山のトイレデーでは登山者に対して紙の持ち帰りを呼びかけるだけでなく、私達自身も山に登り紙やごみ、ときに排泄物自体を拾っています。入山前の心得としてのトイレに関するマナーガイドを作り、全道に点在する山のトイレマップも作成しました。国立公園のキャンプ指定地である美瑛富士避難小屋のトイレ設置へ向けての署名活動では本当に多くの皆様のご協力をいただきました。

さて昨年の活動状況については次ページに書いてある通りです。黒岳や幌尻岳のバイオトイレはその理想にほど遠く、人力による運搬排出に対しては当会としても積極的にお手伝いをさせていただいています。トイレ活動で着るエンジ色のシャツも作りました。少しでも活動内容が視覚的にも目立つことで啓蒙の一助になればとの思いがあります。

山と渓谷社様からの山岳環境賞は過分なるものと自覚しています。これまで活動してきてまだこの程度なのか、との遅々とした歩みへ対する叱咤激励なのだろうと私なりに理解しています。

美瑛富士避難小屋トイレ設置署名の 26768 筆の重さは改めて記すまでもありません。当会では環境省とも会合を持ち、実現へ向けて努力しています。今回のフォーラムでは現地に適するトイレを当会の仲俣私案を元に再度専門家からの考察を参考にしながら、実現可能な具体策を更に検討できればと考えています。

アメリカのリーマンブラザースショックに発する大不況、それに伴う様々な影響は一見すると山のトイレ問題とは関係ないようにも思いますが、経済第一の優先順位から自然や環境問題への関心の後退へと繋がることを懸念しております。一度失ったものを回復する困難さは過去の歴史が証明しているでしょう。

それらを踏まえた上で皆様と意義ある議論ができれば幸いです。